

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年5月15日
【四半期会計期間】	第16期第2四半期（自 2020年1月1日 至 2020年3月31日）
【会社名】	株式会社ユーグレナ
【英訳名】	euglena Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 出雲 充
【本店の所在の場所】	東京都港区芝五丁目29番11号
【電話番号】	03-3453-4907
【事務連絡者氏名】	取締役副社長 永田 暁彦
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝五丁目29番11号
【電話番号】	03-3453-4907
【事務連絡者氏名】	取締役副社長 永田 暁彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第2四半期連結 累計期間	第16期 第2四半期連結 累計期間	第15期
会計期間	自2018年10月1日 至2019年3月31日	自2019年10月1日 至2020年3月31日	自2018年10月1日 至2019年9月30日
売上高 (千円)	6,919,125	6,081,922	13,967,671
経常損失 () (千円)	6,356,077	137,600	7,073,425
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 () (千円)	6,456,575	143,576	9,798,562
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	6,457,179	147,796	9,793,437
純資産額 (千円)	13,264,244	10,717,598	10,834,380
総資産額 (千円)	19,396,685	16,116,889	17,199,448
1株当たり四半期(当期)純損失 () (円)	71.59	1.55	107.25
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	68.3	66.4	62.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	880,014	284,610	1,089,392
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,346,192	79,409	1,436,200
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	3,546,278	184,684	2,713,536
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	7,506,317	7,112,119	7,791,799

回次	第15期 第2四半期 連結会計期間	第16期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2019年1月1日 至2019年3月31日	自2020年1月1日 至2020年3月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	1.61	1.17

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

2020年1月1日付で当社を吸収合併存続会社とし、当社の連結子会社であった株式会社ユーグレナ・アートを吸収合併消滅会社とする吸収合併を行っております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

なお、第2四半期連結累計期間において、新型コロナウイルスの感染拡大による事業への大きな影響はなく、顕在化している重大なリスクはありません。一方で、現時点で終息時期は不透明な状況であるため、引き続き事業へ及ぼす影響については注視してまいります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 業績の状況

当連結会計年度は、ヘルスケア事業においては、セグメント損益は引き続き黒字維持を見込む一方で、広告宣伝投資の比重を、これまで注力してきた直販事業における新規顧客獲得施策から、素材認知拡大や企業ブランディングなどのマーケティング施策にシフトしていく方針であり、このためセグメント売上高は減少を見込んでおります。また、エネルギー・環境事業においては、2018年10月に竣工したバイオジェット・ディーゼル燃料製造実証プラント（以下「実証プラント」）の本格稼働、そしてバイオジェット燃料による有償フライトの実現に向けた取組みにより、セグメント損益は赤字が継続する見込みです。以上の結果、当連結会計年度の通期業績予想は、売上高は前期比で減少を見込むとともに、営業損益、経常損益、親会社株主に帰属する純損益のいずれも赤字を見込んでおります。

当第2四半期連結累計期間は、概ね計画どおりの進捗であり、ヘルスケア事業において新規顧客獲得のための広告宣伝投資の見直しに着手した結果、売上高は6,081,922千円（前年同期比12.1%減）となりました。また、エネルギー・環境事業において実証プラントの本格稼働に向けた準備を進めていることで、同事業のセグメント損失349,899千円を計上しており、営業損失は360,133千円（前年同期は営業損失6,523,892千円）、経常損失は137,600千円（前年同期は経常損失6,356,077千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は143,576千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失6,456,575千円）となりました。

前第2四半期連結会計期間から当第2四半期連結会計期間までの各四半期の業績推移は以下のとおりです。

	前第2四半期 連結会計期間	前第3四半期 連結会計期間	前第4四半期 連結会計期間	当第1四半期 連結会計期間	当第2四半期 連結会計期間
売上高（千円）	3,487,407	3,526,338	3,522,207	3,219,103	2,862,819
営業損益（千円）	65,955	184,041	752,209	244,341	115,791
経常損益（千円）	65,662	2,692	714,655	216,393	78,793

セグメント別の状況については、以下のとおりです。

（ヘルスケア事業）

ヘルスケア事業においては、減少基調が継続しているユーグレナ食品領域を重点強化領域と位置づけ、短期的な売上成長・利益確保は追求せず、ユーグレナ食品の素材プロモーション、企業/素材/商品ブランド間の連携強化、事業基盤整備等に投資比重をシフトすることで、持続的な成長を目指しております。

当第2四半期連結累計期間は、直販チャンネルにおいて、期初からの新規顧客獲得のための広告宣伝投資の見直しを継続し、投資採算管理体制の確立と不採算投資の撤廃が完了したほか、定期購入顧客の継続率改善に向けて、3か月・6か月の有期間の定期購入サービスの利用促進を進めました。また、中長期的な事業成長に必要な素材認知と企業ブランドの確立に向けたマーケティング施策の準備を進め、2020年3月に「ユーグレナの緑汁」や「飲むユーグレナ」などの既存の主力食品商品群を、新たなユーグレナ食品ブランド「からだにユーグレナ」としてリニューアルいたしました。

以上の結果、セグメント売上高6,071,690千円（前年同期比11.7%減）、セグメント利益は442,943千円（前年同期比23.8%減）となりました。

（エネルギー・環境事業）

エネルギー・環境事業においては、バイオジェット・ディーゼル燃料開発を中心に、2018年10月に竣工した実証プラントの本格稼働に向けた準備を進めております。研究開発活動については、2019年11月に、伊藤忠商事株式会社とともに、バイオ燃料用と飼料用の微細藻類ミドリムシの海外培養実証事業を、インドネシア共和国に続き、コロンビア共和国においても開始しました。また、三重県多気郡多気町において、燃料用微細藻類の大規模、低コスト生産技術の確立を目指す研究開発活動を実施しております。

当第2四半期連結累計期間は、2020年1月にバイオジェット燃料の製造技術の国際規格であるASTM D7566規格の新規格の取得の完了を発表し、バイオジェット燃料の製造・供給に向けた準備および関係各所との協議を進めております。また、2020年3月にいすゞ自動車株式会社とともに、次世代バイオディーゼル燃料の完成と燃料供給開始を発表しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間は、セグメント売上高は10,231千円（前年同期比75.0%減）、実証プラントの本格稼働に向けた準備費用の計上等により、セグメント損失349,899千円（前年同期はセグメント損失6,672,603千円）となりました。なお、前年同期は実証プラントの建設費用6,370,841千円を研究開発費として全額費用計上しており、前年同期比において、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失は縮小しております。

(2) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は16,116,889千円となり、前連結会計年度末と比較して1,082,559千円の減少となりました。

負債は、主に未払金及び未払法人税等の減少等により、前連結会計年度末から965,776千円減少し、5,399,291千円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等により、前連結会計年度末から116,782千円減少し、10,717,598千円となりました。この結果、自己資本比率は66.4%となりました。

当連結会計年度は、ヘルスケア事業において、新規顧客獲得のための広告宣伝投資の見直しに伴う売上高の減少を見込む一方で、エネルギー・環境事業において、実証プラントの本格稼働に伴う運転資金の支出が予定されておりますが、十分な手元資金を確保していることから事業の進捗に重要な影響はありません。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末から679,680千円減少し、7,112,119千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失125,405千円の計上、仕入債務の減少134,907千円、未払金の減少236,831千円等により、284,610千円の支出となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出89,086千円等により、79,409千円の支出となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済234,238千円等により、184,684千円の支出となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は、469,543千円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当社は、2020年1月24日開催の取締役会において、当社を吸収合併存続会社、当社の連結子会社である株式会社フックを吸収合併消滅会社として吸収合併することを決議し、2020年1月24日付で同社と合併契約を締結いたしました。なお、本合併は2020年4月1日付で予定どおり実施いたしました。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年5月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	92,928,322	92,935,822	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 また、単元株式数は100株であります。
計	92,928,322	92,935,822	-	-

(注) 提出日現在の発行数には、2020年5月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
2020年1月1日～ 2020年3月31日	-	92,928,322	-	7,318,148	-	2,224,243

(5) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
出雲 充	東京都港区	12,254,091	13.20
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	2,399,000	2.58
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,807,900	1.94
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1-8-11	1,740,800	1.87
JXTGホールディングス株式会社	東京都千代田区大手町1-1-2	1,500,000	1.61
JP MORGAN CHASE BANK 385151 (常任代理人 (株)みずほ銀行 決済営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM	1,171,650	1.26
東京センチュリー株式会社	東京都千代田区神田練塀町3	1,000,000	1.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	東京都中央区晴海1-8-11	901,300	0.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	東京都中央区晴海1-8-11	806,400	0.86
日本コルマー株式会社	大阪市中央区伏見町4-4-1	750,000	0.80
計	-	24,331,141	26.15

(6)【議決権の状況】
【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 56,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 92,823,000	928,230	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。また、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 48,922	-	-
発行済株式総数	92,928,322	-	-
総株主の議決権	-	928,230	-

【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ユーグレナ	東京都港区芝5-29-11	56,400	-	56,400	0.06
計	-	56,400	-	56,400	0.06

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年10月1日から2020年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,832,985	7,112,119
受取手形及び売掛金	1,078,143	898,188
商品及び製品	1,110,256	985,953
仕掛品	53,343	73,122
原材料及び貯蔵品	874,341	969,048
その他	242,810	445,982
貸倒引当金	8,556	8,663
流動資産合計	11,183,325	10,475,751
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,035,798	3,043,793
機械装置及び運搬具	1,434,113	1,472,542
工具、器具及び備品	384,956	390,053
土地	900,520	900,520
リース資産	28,201	25,994
建設仮勘定	6,967	3,723
減価償却累計額	2,200,734	2,376,230
有形固定資産合計	3,589,824	3,460,397
無形固定資産		
のれん	1,112,546	1,036,893
その他	536,085	489,561
無形固定資産合計	1,648,632	1,526,454
投資その他の資産		
投資有価証券	430,788	313,802
差入保証金	254,988	253,939
繰延税金資産	14,977	7,788
その他	76,911	78,755
投資その他の資産合計	777,665	654,286
固定資産合計	6,016,122	5,641,137
資産合計	17,199,448	16,116,889

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	379,734	245,089
短期借入金	470,843	470,289
未払金	939,644	672,770
リース債務	647	346
未払法人税等	241,886	43,078
賞与引当金	39,760	33,932
ポイント引当金	43,236	30,162
その他	354,257	357,570
流動負債合計	2,470,008	1,853,239
固定負債		
長期借入金	3,190,385	2,956,691
リース債務	315	170
退職給付に係る負債	16,168	15,785
資産除去債務	410,280	410,330
繰延税金負債	272,874	158,728
その他	5,035	4,346
固定負債合計	3,895,059	3,546,051
負債合計	6,365,067	5,399,291
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,318,148	7,318,148
資本剰余金	11,880,107	2,224,243
利益剰余金	8,224,708	1,262,732
自己株式	150,597	94,737
株主資本合計	10,822,948	10,710,386
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,374	1,485
為替換算調整勘定	10,143	12,665
その他の包括利益累計額合計	11,517	14,151
新株予約権	15,219	15,219
非支配株主持分	7,730	6,144
純資産合計	10,834,380	10,717,598
負債純資産合計	17,199,448	16,116,889

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)
売上高	6,919,125	6,081,922
売上原価	1,858,381	1,701,515
売上総利益	5,060,744	4,380,407
販売費及び一般管理費	11,584,636	4,740,541
営業損失()	6,523,892	360,133
営業外収益		
受取利息	525	488
助成金収入	127,677	212,868
受取手数料	10,500	10,500
持分法による投資利益	11,454	-
その他	26,448	30,397
営業外収益合計	176,605	254,254
営業外費用		
支払利息	6,117	6,069
持分法による投資損失	-	25,627
その他	2,672	24
営業外費用合計	8,789	31,721
経常損失()	6,356,077	137,600
特別利益		
新株予約権戻入益	490	-
固定資産売却益	1,231	365
持分変動利益	-	12,856
特別利益合計	1,722	13,221
特別損失		
関係会社株式評価損	-	1,027
特別損失合計	-	1,027
税金等調整前四半期純損失()	6,354,355	125,405
法人税、住民税及び事業税	119,004	124,706
法人税等調整額	13,402	106,900
法人税等合計	105,601	17,805
四半期純損失()	6,459,956	143,211
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	3,381	364
親会社株主に帰属する四半期純損失()	6,456,575	143,576

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)
四半期純損失()	6,459,956	143,211
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	554	111
為替換算調整勘定	3,331	3,740
持分法適用会社に対する持分相当額	-	732
その他の包括利益合計	2,777	4,584
四半期包括利益	6,457,179	147,796
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,455,477	146,210
非支配株主に係る四半期包括利益	1,701	1,586

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	6,354,355	125,405
減価償却費	290,638	269,776
のれん償却額	180,671	75,653
実証製造設備の研究開発費計上額	6,370,841	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	136	6
賞与引当金の増減額(は減少)	955	5,827
退職給付引当金の増減額(は減少)	2,817	383
受取利息及び受取配当金	604	545
助成金収入	127,677	212,868
新株予約権戻入益	490	-
支払利息	6,117	6,069
持分法による投資損益(は益)	11,454	25,627
売上債権の増減額(は増加)	304,847	180,329
たな卸資産の増減額(は増加)	150,528	10,296
仕入債務の増減額(は減少)	9,884	134,907
未払金の増減額(は減少)	2,038	236,831
関係会社株式評価損	-	1,027
有形固定資産売却損益(は益)	1,231	365
持分変動損益(は益)	-	12,856
その他	213,915	197,974
小計	704,857	359,179
利息及び配当金の受取額	604	103,825
利息の支払額	4,273	2,953
助成金の受取額	45,907	186,770
法人税等の還付額	156,296	-
法人税等の支払額	23,379	213,072
営業活動によるキャッシュ・フロー	880,014	284,610
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	46,103	-
定期預金の払戻による収入	-	42,329
有形固定資産の取得による支出	1,290,377	89,086
有形固定資産の売却による収入	1,313	854
無形固定資産の取得による支出	25,342	35,148
投資有価証券の清算による収入	15,362	-
差入保証金の差入による支出	4,129	8
その他	3,084	1,649
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,346,192	79,409
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	240,284	234,238
リース債務の返済による支出	528	446
株式の発行による収入	3,787,090	-
非支配株主からの払込みによる収入	-	50,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,546,278	184,684
現金及び現金同等物に係る換算差額	726	1,290
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,079,373	547,414
現金及び現金同等物の期首残高	4,426,943	7,791,799
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	-	132,266
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,506,317	7,112,119

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

当第2四半期連結会計期間において、当社子会社の株式会社ユーグレナインベストメントが、第三者割当増資を行いました。その結果、実質的な支配力がなくなったことにより、連結子会社から持分法適用会社に変更しております。なお、株式会社ユーグレナインベストメントは増資後に、リアルテックホールディングス株式会社に社名変更しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)
給料手当	536,406千円	592,043千円
広告宣伝費	1,371,256	1,028,755
研究開発費	6,799,948	469,543
減価償却費	109,765	113,082

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)
現金及び預金勘定	7,552,768千円	7,112,119千円
預入期間が3か月を越える定期預金	46,450	-
現金及び現金同等物	7,506,317	7,112,119

(株主資本等関係)

当社は、2019年12月20日開催の第15期定時株主総会において、欠損補填を目的とする資本準備金の額の減少及び剰余金の処分について決議し、2019年12月20日を効力発生日として資本準備金9,655,863千円を減少し、同額をその他資本剰余金に振り替えました。

また、会社法第452条規定に基づき、その他資本剰余金9,655,863千円を繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損補填いたしました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本準備金2,224,243千円、利益剰余金1,262,732千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	ヘルスケア事業	エネルギー・ 環境事業			
売上高					
外部顧客への売上高	6,878,218	40,907	6,919,125	-	6,919,125
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	6,878,218	40,907	6,919,125	-	6,919,125
セグメント利益又は損失()	581,107	6,672,603	6,091,496	432,396	6,523,892

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 432,396千円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	ヘルスケア事業	エネルギー・ 環境事業			
売上高					
外部顧客への売上高	6,071,690	10,231	6,081,922	-	6,081,922
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	6,071,690	10,231	6,081,922	-	6,081,922
セグメント利益又は損失()	442,943	349,899	93,044	453,177	360,133

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 453,177千円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり四半期純損失金額()	71.59	1.55
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	6,456,575	143,576
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額 ()(千円)	6,456,575	143,576
普通株式の期中平均株式数(株)	90,189,170	92,848,942
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四 半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年5月15日

株式会社ユーグレナ

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 古谷 大二郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 萬 政広 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ユーグレナの2019年10月1日から2020年9月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年10月1日から2020年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ユーグレナ及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。